

# 天皇制は必要か

反対意見 担当: 中村航太郎

## 1. 明治憲法下の天皇

大日本国帝国憲法において天皇にはすべての軍隊を指揮する統帥権が与えられており、天皇が軍部を動かす独裁をとることも可能であった。しかし、軍部の暴走による満州事変がおこり欧米との対立が深刻化し、日中戦争・日米開戦へとむかい敗戦にいたった。

## 2. 天皇の戦争責任

1945年、日本の敗戦により連合軍が占領を開始したとき、イギリス・アメリカは天皇の戦争責任を追究しようという方針を採っていた。しかし、連合国は、天皇が東京裁判に訴追された場合、天皇を糾弾する左翼系運動と天皇擁護を打ち出す反米大衆運動がぶつかりあう大混乱を予想し、国民の戦前・中の天皇擁護の気持ちを利用し天皇を免責した。その後天皇の人間宣言が行われ、天皇象徴・戦争放棄・民主化を盛り込んだ日本国憲法が成立した。

## 1, 2 から考えられること

明治憲法下の天皇制は戦争を引き起こした一因である。

## 3. 現在の天皇制

現在の天皇制は戦前の天皇制とは異なるものであり、社会の変化に対応して変容してきている。

連合国が国民の混乱をさけるために存続させた天皇制は、政党が活発に議論を交わす議院内閣制が発達した今日において必要なのだろうか。

一般的に議員内閣制は国民に認められている以上、多少の動揺はあるにしても、戦後である現在に天皇制廃止による大混乱はおこらないと思われる。つまり天皇制は廃止しても大した混乱は起きない。

皇太子妃の一流大学出身・外交官としてのキャリア・帰国子女というプラス面のおかげで皇室外交に役立っているという点で天皇制は戦後の社会体制と適応しているとしても、マスメディアが皇室一家をタレント扱いし皇室に対しては特別な敬語を使用するなど、そこまで持ち上げる必要はあるのだろうか。

このような報道の仕方は国民に、「天皇は近寄りたくないもの」という認識をあたえてしまう。その結果いくら憲法上の権限をもたなくても、存在するというだけで、大衆のデモクラシーを空洞化させてしまう。

